

【活動6】

市民のヘルスリテラシー向上を目指した 学習支援プログラム事業

事業名：ヘルスリテラシー学習支援プログラム（いなかもち）

● **事業開始** 2013年4月

（2023年より埼玉県立大学オープンカレッジとしても活動拡大）

● **立ち上げのきっかけ** 市民が自分の健康を自分で創り守るために、必要な健康情報入手し、理解し、評価し、活用する力が必要である。近年、インターネット、テレビ、雑誌の普及により、健康情報が簡単に入手できる時代になったが、自分に必要な情報を入手することが困難な状況にあり、市民のヘルスリテラシー向上を図るための活動事業がスタートした。

市民のヘルスリテラシー向上を目指した 学習支援プログラム事業

●ケア対象

一般市民（18歳以上）

●活動メンバー

看護教員、図書館司書、看護師、養護教諭、市民サポーターなど

●活動目標

市民が自分の健康を自分で守ることができるために、市民のヘルスリテラシー（健康情報を入手する力、健康情報を理解する力）の向上を図る。

●活動内容

市民のヘルスリテラシー向上を目指す教材開発・普及（動画・ロゴ作成）

市民のヘルスリテラシー向上を目指す市民健康講座の開催（参加型講座）

市民のヘルスリテラシー向上を 目指した 学習支援プログラム事業



健康情報を確認するポイント

- い いつの情報か?
- な なんの目的の情報か?
- か 聞いた人は誰か?
- も もとネタは何か?
- ち ちがう情報と比べたか?

互いを理解する	互いを信頼する
互いを尊敬する	互いの持ち味を活かす
互いに役割を担う	共に課題を乗り越える
意思決定を共有する	共に学ぶ



か いた人はだれか?

見どころ	確認する場所
誰かどのような立場で書いているのか	ホームページの運営者 その記事の著者
出版(運営)者は誰か	URL (インターネットの住所) 例) ac.jp=教育機関 go.jp=政府機関



健康情報を理解する
4つのポイント

- ① ぜ: 全体の数を意識する
- ③ ひ: 比較して考える
- ② い: いくつかの原因を考える
- ④ も: 物事の両面を考える

「是非いも」も忘れずに! 覚えて下さい。